



## ふるさと石岡映像コンテスト受賞作品感想文コンクールを通して 子どもたちが見つけた石岡

1月25日、中央図書館3階読書室で「ふるさと石岡映像コンテスト受賞作品感想文コンクール」の表彰式が行われました。このコンクールは、市内小中学生が「ふるさと石岡映像コンテ

スト」の受賞作品を見て感想文を書くというもので、174作品の応募があり、厳正な審査を経て、最優秀賞を含む20人に表彰状が授与されました。 図秘書広聴課 Tel. 23-7275

### ふるさと石岡

#### 映像コンテストとは

石岡市の歴史・風土・文化・伝承・人物などを素材として、世代を越えて共有される「日本人の心」や「日本のふるさとの素晴らしさ」を模索し、40分以内のフィクション・ドキュメンタリー映像作品として募集するというもの。市が平成29〜30年度に実施し、14作品の応募があり、4作品が選定されました。

受賞した4作品は「獅子の道しるべ（最優秀作品賞）」、「Ishioka Heritage（審査委員特別賞・石岡市観光協会会長賞）」、「土蜘蛛の復活 黒坂命を召還せよ！（奨励賞）」、「食、つなぐ想い―生産者の声―茨城県石岡市（学生賞）」です。

#### 仲野さん家族が石岡を

#### リサーチした4か月の記録

表彰式では、受賞作品の一つである「Ishioka Heritage」の上映会が行われました。制作したのは、市内在住でCMディレクターの仲野哲郎さん。



▲ Ishioka Heritage を制作した仲野哲郎さん

「石岡市に移住してきてから、『何にもない石岡によく来たね』と住民の方から頻繁に言われました。移住者の私からすると、石岡は何もなくない、と思っています。これは移住して間もない家族が、子供の故郷になる石岡をリサーチした約4か月の記録映像です」という仲野さん自身のナレーションで始まる映像には、東日本で2番目に大きい舟塚山古墳、創建1300年を誇る常陸國總社宮、昭和の大火からの復興のシンボルである看板建築や伝統産業の酒造り、石岡らしい場所と、そこを守る人たちが登場します。

上映会で作品を鑑賞した三浦美智子さんは「石岡に来て30年以上が経ちますが、この作品を通して初めて知ったこと、私が住んでいた場所はこのように素敵なところだったん



▲今泉市長から表彰状が手渡されました

「ふるさと学習」をスタート。地域住民の皆さんに協力してもらい、子どもたちに地域の歴史を伝えていきます。

この授業には、歴史を知ること、生まれ育った町に愛着をもち、地域のために活動できるような人材になってほ

だと思ふ場面がたくさんありました。感想文も読ませてもらいましたが、自分も石岡の魅力伝えていきたいという子どもたちの思いに感動しました」と話します。

### ふるさと学習を道しるべに

石岡市では平成28年度から

小学1年〜中学3年を対象に

「ふるさと学習」をスタート。地域住民の皆さんに協力して

もらい、子どもたちに地域の歴史を伝えていきます。

園部中学校では生徒たちが、真家地区の福寿院に伝わる念仏踊り「真家みたまおどり」の歴史について発表した後、実際に踊りを披露しまし

た。今年11月9日に中央公民館で開催し、市内全24校が参加。いばらきっ子郷土検定と各校の取り組みが披露されました。今年の発表校は瓦会小、高浜小、園部中の3校。

しい、大人になった子どもたちの道しるべになるようにという願いを込めています。平成30年度からは、子どもたちの学びを伝え合う「ふるさと学習サミット」を開催しています。



▲園部中学校の生徒たちが披露した真家みたまおどり

た。平安時代末期、福寿院が創建された頃、奈良県にある長谷寺から伝えられたとされている「真家みたまおどり」。毎年8月15日に、寺院や新盆を家を巡って行われ、地区の子どもたちが踊り手として参加しています。

### 共通項は、石岡の魅力を知って伝えるということ

ふるさと石岡映像コンテスト受賞作品感想文コンクールと、ふるさと学習に共通するのは、石岡の魅力を自分たちの言葉で表現し、伝える機会であること。

6・7ページでは、本コンクールの受賞作品を全文紹介しています。子どもたちから見た石岡の姿が、それぞれの言葉で生き生きと描かれています。子どもたちの感想文からは、石岡の魅力がたくさん伝わってきました。

魅力の発信は、私たち自身が、石岡の魅力を理解し、自分たちの言葉で伝えていくことから始まります。ぜひ、皆さんもご一読ください。

## ふるさと石岡映像コンテスト 感想文コンクール受賞者 (敬称略)

### 最優秀賞

- ・本田葉菜 (杉並小2年)
- ・千葉心美 (杉並小3年)
- ・新井二千華 (東小6年)
- ・井上隆太 (国府中1年)

### 入選

- ・小林夏穂 (北小1年)
- ・田辺莉彩 (南小1年)
- ・西井美織 (南小4年)
- ・赤地結衣 (高浜小6年)
- ・小吹芽以 (関川小6年)
- ・志賀ほのか (東小6年)
- ・飯塚菜々子 (国府中1年)
- ・米田大飛 (国府中1年)

### 優秀賞

- ・関篤人 (杉並小2年)
- ・田村悠弥 (府中小2年)
- ・藤本理瑚 (北小3年)
- ・小沼結依 (高浜小6年)
- ・小松崎麻友 (東小6年)
- ・関汐梨 (杉並小6年)
- ・小松崎陽介 (石岡中3年)
- ・関口桃 (国府中1年)



▲受賞者の作品をまとめた文集を作成し、ホームページで公開しています。冊子で読みたい人は秘書広聴課まで。

# ぼくのまち 石岡

「くやし〜」

ぼくは正直に言つて『Is h i o k a H e r i t a g e』を見てそう思った。

ぼくは、生まれてから十三年間ずっと石岡に住んでいる。

「石岡の好きなどころを教えてください。」

と聞かれたら、迷わずに「お祭りです」

と答える。小学生の時にやってきた転校生にも、お祭りがどれだけでもいいか教えてたな、と思いついた。

この映像の作者は、石岡に移住して四ヶ月だという。移住した当初、何にもない石岡によく来たね、と言われたそうだ。本当にそうなのか、自らが体験したものを記録として編集したそうだ。

ぼくが知らない石岡。知っている石岡。いろんな顔の石岡がそこには記録されていた。

お祭りはもちろんのこと、食



井上隆太さん  
(国府中1年)

べ物、歴史ある石岡。

ぼくは、うっかりしていたんだ。毎日当たり前のように過ごしていたけれど、外から見るところにもいろんな顔があったんだ。

ぼくが、一番印象に残ったのは、

「移住して、子供達がよく笑うようになった。よく食べるようになった。」というところだ。なんだか、自分がほめられているようで恥ずかしくなった。そして、ちよつと鼻の奥がツンとした。

石岡、石岡…。

住んでいる自分たちが、自分の街を自慢しなくてどうする！

移住して来た人に気づかせてもらうなんて、悔しかった。だから、ぼくは今度は自分だけの石岡の魅力を探したい。そして、次に石岡に興味を深めてくれた人に、教えてあげたい。

石岡の魅力を探したい。そして、次に石岡に興味を深めてくれた人に、教えてあげたい。

## ふるさと石岡映像コンテスト受賞作品感想文コンクールを通して 子どもたちが見つけた石岡

小学校低学年の部から中学生の部まで4部門全174作品の応募の中から、各部門最優秀賞を含む20作品を選定しました。本ページでは最優

秀作品賞の4作品を紹介します。20作品をまとめた文集はホームページまたは中央図書館などで読むことができます。

# 「イシオカ ヘリテイジ」 を見て

わたしは、「イシオカヘリテイジ」を見て、はじめに、

「石岡にはこんなにすばらしい所がたくさんあるんだな。」と、改めて思いました。

石岡の町中には、看板建築が昔からあり、平成十五年から十八年にかけて登録有形文化財に指定されました。看板建築は、

石岡だけで約三十件ほどあるそうです。その中で、今は化粧品店になっている建物で、この化粧品店の特徴は、ギリシャ風の建物であり、屋根の所にめずらしい模様があるそうです。このような建物は世界にはない建物なので、自分の住む地域に、その様な貴重な建物があることがすごいと思えました。

次は昭和五年に建てられたはきもの屋です。このはきもの屋は、めずらしいデザインで設計されており、他にはなかなかない、貴重な建物だそうです。

昨年、ぼんおどりの時にげた

を買に行き、すてきな鼻緒の下駄を買いました。昭和初期に建築された建物で、今もなお、昔ながらのはきものがたくさんありました。はきごちも良く花のがらがとつてもきれいでした。これからもこのげたをはきながらぼんおどりをがんばりたいと思います。



新井二千華さん  
(東小6年)

看板建物以外にも石岡のお祭りも石岡のみりよくです。

石岡のお祭りにはおみこしと獅子があり、町の方々が協力してお祭りを行っています。獅子はたくさんあり、わりと同じように見えますが、口や目元、まゆげなどが一つひとつ変わっています。黒と金のまゆげがあるのでお祭りのときに見てみるのも一つの見所です。

今まで知ることができなかったことをたくさん知ることができ、石岡のことに興味を持つことができたとこれからもいろいろと調べてみたいと思いました。

と調べてみたいと思いました。

## はじめてしまったよ



かな  
本田葉菜さん  
(杉並小2年)

石おかのDVDを見て、はじめてしまったことが三つありました。

一つ目は、ふなつか山こふんです。おはかときいて、びっくりました。

二つ目は、そうしゃぐうです。そうしゃぐうには、六人のかみさまがいて、そのうち一人は、オオクニヌシノミコトというかみさまがいることがわかりました。こんどお母さんやお父さんで行ったときに教えてあげたいです。

です。

三つ目は、石おかのおまつりです。ししのかおの色が黒いかおのおししや金色のかおのおししがいてびっくりました。わたしは、赤色のかおのおししかいないとおもっていました。けれど黒色や金色のかおのししがいたのがわかりました。もつと石おかのことや石おかのおまつりのことをせかい中の人にひろめて、石おかに来てもらいたいです。

## 子どもたちが見た作品を、1枚のDVDに収録



中央図書館での子の二かが貸し出しのボードと見ることができま



### 収録作品

獅子の道しるべ (山本 尚志氏)

・映文連アワード2019で部門別優秀賞

・神戸インディペンデント映画祭入選

Ishioka Heritage (仲野 哲郎氏)

「土蜘蛛の復活 黒坂命を召還せよ！」

(石岡二高「歴史は物語だ！」チーム)

「食、つなぐ想い—生産者の声—茨城県石岡市」(近松 栄実氏)



▲東日本で2番目に大きな舟塚山古墳(北根本)



▲常陸國總社宮例大祭で大神輿の露払いを務める土橋町の獅子(追難祭にて)



▲筑波流と呼ばれる装飾の施される茅葺民家は今も現役です(佐久の大場邸)

## ししの道しるべ



ここみ  
千葉心美さん  
(杉並小3年)

ししまいは、かみさまへの道あんないだと、はじめて知りました。理由は、話の中にできした、おししを作っているおじいさんが言っていたからです。

つぎに男の人のコンビと、おししのかんけいは、にているとおもいました。なぜかと言うと、おししは、しっぱいしてもかけらをくつつければもとにもどると、コンビは、けんかして、コンビをやめて、もう一どやりなおそうとおもっていたからです。つぎに石岡で知っていたところがいっぱい出てきました。とくにわたしが知っていたところはフラワーパークです。お花を見ている二人は楽しそうでした。

コンビは、ひろい場所です。た、おわらいをやつてそれをネットに出してそれを見ていた女の人と男の人が楽しそうに見ていました。そのコンビは今まであまりみんなに見てもらえなかつたので楽しそうに見てもらえてよかつたなあとおもいま

した。そのコンビのことを今よりみんなが見てほしいと思いました。

つぎに二人のデートの話です。一まい目の紙に、いろんな石おかの場所があったことはかきました。でもそこで石おかのいい場所がひょうげんされているのかなあ。とおもいました。あと、デート中にかいだんにすわつて虫よけスプレーをやつていたシーンがありました。そこで石おかには虫がたくさんいて自然がいっぱいでまぢがきれいなことをあらわしているのかなあとおもいました。わたしは外に出かけると虫がいっぱいいるのでぜったいそうだと思いました。

みんなでごちそうを食べているシーンがありました。それも、自然がいっぱいだから野さいがとれるんだよというのひょうげんしているとおもいました。石おかは自然がいっぱいできれいということそのDVDを見てべん強になりました